

経済学基礎知識1000題

文部科学省特色GPに選定

「地域創成プログラム」

文部科学省 現代GPに選定

HOME &gt; 教育GPコア6 最初の2年を終えて

このページを印刷する 

## 教員

学部長  
伊沢俊泰 教授

1995年名古屋学院大学経済学部に着任。2010年経済学部長に就任。経済学の研究者を志したきっかけは、大学3年時に受講した講義。それまで疑ってこなかった常識が覆る経験をし、経済学を学ぶ面白さを感じた。

## 教員

兎島完二 教授

1994年4月 名古屋学院大学 経済学部に着任。主な担当科目は、情報経済論。コア6の設計に深く関わった立役者のひとり。学生が経済学の面白さにふれる機会をたくさん作りたいと思い、そのツールのひとつとしてコア6を考案。

## 学生

経済学部 政策学科 2年  
久保秀尚くん

経済学の面白さは、政治や法律など幅広い分野の知識を獲得できること。普段コア6には、インターネット環境が整っている学内で取り組むことが多い。ゼミ対抗コア6コンペティション上位入賞者。EREの勉強を通して経済学を学ぶクラブ『経済学研究会』の主幹を務める。（※ERE：経済学検定）

## 学生

経済学部 経済学科 2年  
山本美紗さん

情報ネットワークの活用にかを入れる名古屋学院大学に魅力を感じ入学。コア6には、授業の合間の時間を利用し、毎月2時間程度で集中的に行う。実践的なまちづくり活動に参加する「地域創成プログラム」のひとつ、「マイルポスト」にも積極参加している。

## はじめに



大学入学後、抽象的な理論の学習で壁にぶつかり、経済学に興味を持てずにいる。また、基礎的知識の定着がされておらず、2年次以降の演習で深みのある議論ができない、3年での研究報告書や卒論のテーマに悩んでしまうといった学生は少なくありません。こうした状況を打開するため、2010年度の入学生よりスタートした「コア6」。断片的な知識の学習に留まらない、学生の生活に引き寄せながら学べるツールとして

どのような変化をもたらしたのか。今回コア6の成果と展望について、教員と第1期生にそれぞれの想いや本音をご紹介します。

#1

## 実は身近な経済学。 学ぶ“楽しさ”を味わって欲しい。

児島 教 授 : まず、コア6・第1期生のふたりが、2年間使ってみた感想を聞かせてくれるかな。

山本 さん : さ正直にいうと、入学した頃は、ゼミの先生から「やってね」と言われてやっていました。でも、だんだん知識が身に付くのが実感できるようになると、問題を解くのが楽しくなって。

久保 くん : 僕も最初は、経済学部なのに歴史や宗教の問題も混ざっていて、「なんでこんな問題やるんだろう」って不思議でした。でも、講義を受けていると、関係なさそうな問題も実は経済と関わっていると分かって、面白かったですね。

伊沢 教 授 : 久保くんが感じた面白さは、まさに私たちが感じて欲しかったものです。経済学の難しい理論が実は日常生活を考える手がかりになると、気付いてもらいたかったんですよ。



児島 教 授 : できるだけ取り組みやすくしようと、身近な話題を問題のテーマにしてきました。部屋探しの話で不動産や地価について説明したり、アルバイトやテーマパークの話と問題を関連させたり。そういう工夫は役に立った？

山本 さん : 私は設問の答えを出すことに必死で、テーマを読まずに終わることも多かったです。

児島 教 授 : 読まないんだ(苦笑)。すぐ問題を解いちゃうんだね。

山本 さん : さでも、興味がある時はちゃんと読みましたよ。

児島 教 授 : それはどんな時？

山本 さん : さ資格試験とか就活に役立ちそうなものですね。

児島 教 授 : なるほど～。実は「テストに出題される」「資格取得に役立つ」などのインセンティブは、あえて用意しなかったんですよ。できれば「得するから」ではなく、「経済学を学ぶ面白さ」を純粹に味わって欲しかったから。

経済学基礎知識1000題

文部科学省特色GPに選定

「地域創成プログラム」

文部科学省 現代GPに選定

HOME &gt; 教育GPコア6 最初の2年を終えて

このページを印刷する 

#2

## 学生のやる気を引き出した コア6の魅力とは。

伊 沢 教 授 : では、コア6をやっている良かったと感じた瞬間って何かあったのかな？

久 保 くん : 事前に問題を解いていたおかげで、講義が分かりやすいと感じることがありました。コア6で出題された話題が出たときは、理解がスムーズになるんです。予習ツールとして役に立ちましたよ。



児 島 教 授 : そういう経験をしてもらえたのは嬉しいね。講義や本、ニュースなんかの、様々な媒体との相乗効果を生むツールになるのは、コア6の目標のひとつだったんだよ。一度じゃ定着しない知識も、二度三度と目にするうちに自分のものになる。成長が感じられると、やる気も出てくるよね。

山 本 さん : 私は、ゼミや学年での順位が、やる気につながりました。そういえば2年目には、ゼミ対抗で達成度を競うイベントがありましたよね？他のゼミに負けないように頑張っちゃいました！それから、先生のコメントがもらえるのも嬉しかったです。褒められたり、アドバイスをもらえたりすると難しい問題も頑張ろうって思えました。

#3

## 教員と学生、それぞれの思い。



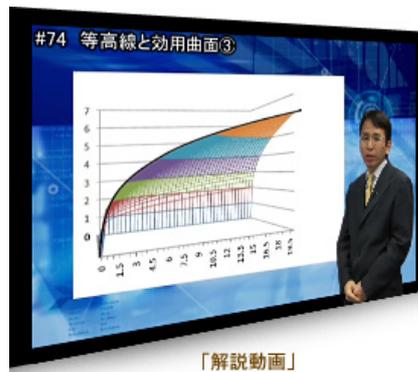
伊 沢 教 熱心に取り組んでくれる人たちもありますが、全体的に利用率がなかなか上がらないといった課題もまだまだあるんです。少しでも親しみを持ってもらおうと、コア博士というフクロウのマスコットキャラクターを作ったり、そのグッズを成績優秀者に贈呈したりもしてきましたんですが。



「コア博士」

山 本 さ 私もうつかもらいました。かわいいですよね！  
 ん： 児 島 教マウスやUSBもあるんだよ。今はポストイット  
 授： トを作ったりしてますね。

久 保 く いいですね！USB！僕も欲しいな。  
 ん：



「解説動画」

児 島 教 プレゼントだけでなく、各回の導入と解説の動画にも力を入れていたんですよ。先生たちには分かりやすい解説を心がけてもらって、面白くなるように、衣装や背景にもこだわった。あの動画はどうだった？

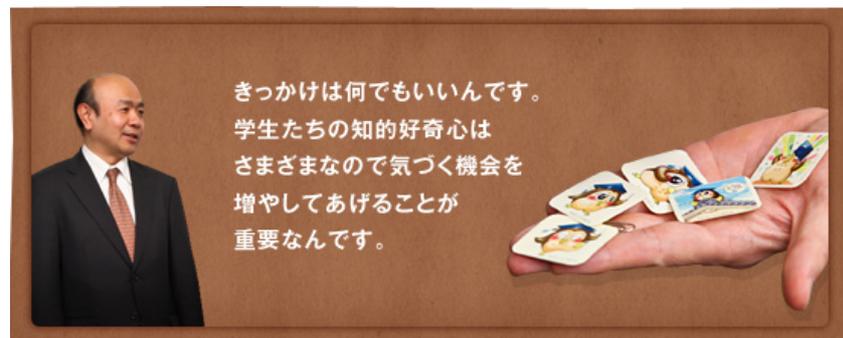
久 保 く そんな動画があったんですか！知らなかった…。解説は  
 ん： 各問題に文章でついていたので、動画には気が付きませんでした。

児 島 教 そうか〜。こういう機能をちゃんと説明していたら、も  
 授： っとたくさんの人に使ってもらえたのかな？

山 本 さ 私の周りではコア6の話になること、よくありますよ。  
 ん： 友人と順位を競い合ったりできるのも楽しいです。周りにいる人が熱心かどうかで、コア6への取り組み方は大きく変わってくるのかも…

伊 沢 教 今の4年生からは「自分たちもコア6を使いたい」という  
 授： 声も聞こえてきているんですよ。ゼミや卒論など、自分で調査し考える機会が増えるほど、コア6の体系的な教材の意義が分かるようになるんだと思います。

児 島 教 コア6には、卒業論文のテーマ選びに役立つ情報もたくさん  
 授： さん転がっていますからね。ふたりが3年生になって、ゼミや卒論でコア6での学習が活きてくると、もっと利用することの良さが新入生にも伝わり、状況もまた変わってくるんでしょうね。



経済学基礎知識1000題

文部科学省特色GPに選定

「地域創成プログラム」

文部科学省現代GPに選定

HOME &gt; 教育GPコア6 最初の2年を終えて

このページを印刷する 

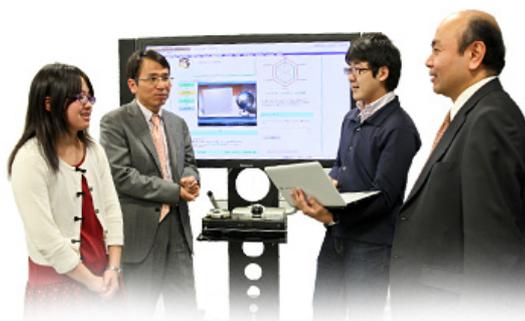
#4

## 学生の声から見た、コア6のこれから。

児島 教 授 : 今回、ふたりの話を聞いて、コア6がどう使われているのか理解できました。もっと利用者の声を聞きながら改善していくことが必要だね。

山本 さん : 私も、コア6について知らないことがたくさんありました。入学した時に、もっと深く知る機会があったら、今よりも有効な使い方ができたのかな。

久保 くん : 知らなかった機能を、これからゼミや卒論のために利用したいですね。それから、僕の所属しているクラブの活動にも、うまく取り入れて効率よく学習できるようにコア6を活用したいですね。



児島 教 授 : 随時改善をしているので、どんどん活用して欲しいですね。最近、スマートフォンからも見られるようになったんだよ。

久保 くん : へえ！それはかなり便利です！大学にいない時でも、気軽に取り組みそうです。

伊沢 教 授 : 動画にしてもスマートフォン対応にしても、いろいろと工夫したことが、活かしきれていないようですね。問題の質や難易度の検討、コンテンツの精査も必要だと思います。学生さんたちの声を十分に反映させながら、コア6が「日常学習の伴走者」として機能するように、試行錯誤を続けていきたいです。